

雪の利活用の試み！

雪と寒さを逆手に取った試み

1 はじめに

岩手県における冬季の道路は、除雪などを適切に実施することにより、安全で円滑な交通を確保することが重要です。また、雪国での生活や経済活動を支える重要な役割も担っています。今回の「知恵と工夫」のコーナーでは、岩手の雪と寒さを逆手に取り、雪を利活用した”ちょっとした試み”をご紹介します。

2 雪を利活用した試み

砂箱は、冬期に局部的に見通しの悪いカーブ、急勾配、日影などの区間で路面が凍結した時に、散布する砂を入れる目的で設置している施設です。

今回の取組みとして、雪と寒さを逆手にとり、冬季限定の雪だるま・かまくらを砂箱の代用品として作成してみました。

●雪だるま・かまくらの製作・設置

- 製作設置区間 一般国道 281 号線
葛巻町大坊地区から平庭峠まで
- 製作設置数量 3 基
(内 雪だるま 2 基、かまくら 1 基)



一般国道 281 号平庭地区の雪だるま



施行状況（製作時間は 4 人で 1 時間くらいかかりました。）



製作完了



砂袋



製作日より 1 週間後

3 今後の取組みの方向

盛岡地方振興局土木部管内の砂箱は、約 230 基程度設置されています。そのほとんどが 10 年以上経過し全般的に老朽化が進んでおり、修繕か新しいものに交換するといった更新時期に達しております。

今回の試みの結果を見ながら、山間部の気温が氷点下になる地域については、砂箱を更新しないで、雪を利活用することでコスト縮減と雪だるまによるイメージアップの可能性を探ることにしたいと考えております。

【コスト比較】

- 砂箱更新単価（概算）
1 基 100,000 円/10 年間 = 10,000 円/年
- だるま単価
1 基 @1,700 円 × 4 人 = 6,800 円/年
※効率的作業でコスト縮減可能
(盛岡地方振興局土木部道路環境課)

